

広がっています！  
ステージを  
越えた文化の輪。

ART  
FESTIVAL '85  
IN KUMAMOTO



この秋、熊本は大きな興奮につつまれました。文化庁芸術祭初の地方公演と日本文化デザイン会議。日本文化にとっても大切な二つのビッグイベントが、この熊本で開かれたからです。これまで東京を中心に行われてきた文化庁芸術祭は、今年初めて地方で行われることになり、その第一回目の開催地に熊本が選ばれました。「文化国体」のスタートとなるこの催しは、県立劇場をメインステージに、十月一日から十一月十日までの四十一日間にわたって行われ、公演の数は二十七近くにものぼりました。また、県文化協会と芸術祭委員会主催の県芸術祭が、九月二十八日から十一月三十日まで百二十八の公演を行っているほか、市町村や民間団体の文化行事が県内各地で催されるなど、各地で初の「文化国体」の空気が盛り上がっています。



触れる



九月二十八日のオープニングセレモニーで始まった文化庁主催の芸術祭は、音楽・演劇・歌舞伎など、幅広いジャンルで活躍する超一流の人たちのステージばかり。十月一日の「古典芸能の夕べ」では、日本舞踊界を代表する武原はんさんの舞が演じられ、県内はもとより県外からも多くの邦楽・舞踊ファンが詰めかけ、日頃接することのできない義太夫・地唄を堪能しました。また、十月十二日の「吉原すみれパーカッションリサイタル」では、リズムカルな数十種類の打楽器の演奏に、観衆はすっかり酔いしれていました。特に世界的にも有名な吉原さんの演奏は、全身を使った迫力溢れるもの。会場からも盛んな拍手が送られていました。その他、十月四日の二期会合唱団等によるオペラ「メリー・ウイドー」、翌五日の豊田耕児・元子デュオリサイタルなど魅力的な公演が相次ぎ、ふだん、なかなか触れることのできない芸術のオンパレードに、県立劇場は、いつもにない華やかな熱気に包まれました。



この芸術祭で、多くの人々が触れた優れた文化・芸術その感動の渦が今後の熊本文化にも様々な波紋を広げていくことでしょう。

県立劇場大会議室で行われた豊田耕児先生によるヴァイオリン公開レッスンでは、経験年数が六、七程度の三人の児童が受講しました。いずれも地元の音楽コンクールでグランプリを受賞するという腕前の子供たちでしたが、日頃とは一味違った豊田先生の指導に、大いに啓発された様子でした。

